



3

1

2

5

4



7

6

吉無田に行楽シーズン到来

行楽地として親しまれる吉無田高原で野焼きが4月8日、「緑の村」周辺の草原地帯で行われました。野焼きは、害虫駆除や新緑の芽立ちを助け、山林火災の防止などを目的とした春の伝統行事です。地域住民や地元消防団など約50人が参加して、高原山頂から二手にわかれて火入れを開始。枯れ草に火を入れると、バチバチと音をたてながら勢いよく燃え上がり、一面は炎の帯に包まれました。草原約20^㉓は2時間ほどで真っ黒に様変わりして、これからの観光シーズンに備えました。火入れを担当した浅井久敏さん(田代)は、「野焼きには17歳から携わっている。昨夜は風が強く心配していたが事故もなく無事に終えてホッとした。今年はよく焼けたから、緑がきれいに映えている。これからも伝統行事をみんなで守り続けていきたい」と話していました。

1.2.3 枯草に火が放たれると炎の波が一面を駆け上り、灼熱の熱波が広がる 4_アマチュアカメラマンも訪れ吉無田の風物詩にシャッターを切っていた 5_野焼きの延焼を防ぐためにジェットシューターを背負い目を光らせる消防団員 6_火入れから2時間で真っ黒に様変わった草原地帯 7_「緑の村」には家族連れの行楽客の姿も見られた

編集後記

▼3月は卒業や退職で寂しい別れがあり、4月は入学、人事異動などで新しい出会いがありました。複雑な心境の中、慌ただしく時間を過ごしています。御船を駆け回っていた相棒の◎君が広報マンを卒業しました。長い間、ご苦労様でした。後任は◎君並みに人なつこい◎君が引き継ぎます。いろんな場所で見かけられると思いますが、気軽に声をかけてあげてくださいね。◎

▼今月号で広報を卒業します。この4年半、御船の人を主人公に、自分なりに物語を綴ってみました。御船の歴史と人情に触れる度に、古里が好きになりました。その思いが全力投球の原動力でした▼期間限定の記者生活に感謝して、ペンとカメラをおきます。本当にありがとうございました。田上仁一郎

▼4月から広報マンとして御船を駆け回ることになりました。今まで愛用していた電卓をカメラとペンに持ち替えて、なれないカメラ撮影と原稿作成に奮闘中です。今後、色々な場所に出没しますので、よろしくお願ひします。◎

